

# ICT ニュース～オミクロン株 BA.5 について～

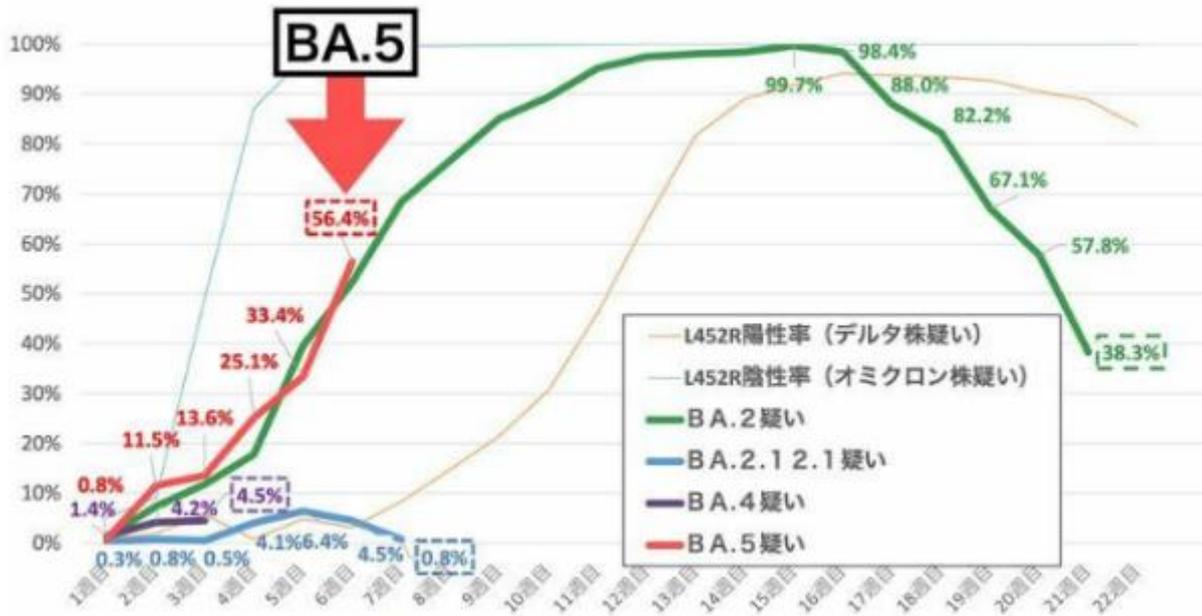


忽那賢志  
感染症専門医

2022年7月 院内感染対策委員

日本国内ではオミクロン株の亜系統 BA.5 が拡大しています。  
この BA.5 ではこれまでのオミクロン株と比べて症状の頻度や続く期間は違うのでしょうか。  
これまでに分かっていることについてまとめました。

## 日本国内でも急速にBA.5に置き換わっている



東京都におけるそれぞれの変異株の割合の推移 (第93回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議資料より)

第6波の主流であったオミクロン株は BA.1 と呼ばれる亜系統に分類されます。  
その後、4月から5月にかけて BA.2 と呼ばれる亜系統が日本国内で拡大し主流となりました。  
そして現在、BA.5 と呼ばれる亜系統が日本国内で拡大しています。  
7月中旬時点ですでに東京都内では半分以上が BA.5 による感染例と考えられています。

## BA.5の症状は、BA.1/BA.2とほとんど変わらない



フランスでBA.5に感染した288人の臨床症状の頻度 (フランス公衆衛生局 2022/06/15資料より)

従来の新型コロナウイルスと比べて、オミクロン株では鼻水やのどの痛みなどの症状が多く、嗅覚・味覚の異常は少なくなっており、より風邪やインフルエンザの症状に似てきていることが分かりました。同じオミクロン株である BA.5 でも同様に鼻水やのどの痛みの症状が多いようです。

[フランス公衆衛生局の調査](#)によると、フランス国内でBA.5に感染した288人の臨床症状で多かったのは、[だるさ\(76%\)](#)、[咳\(58%\)](#)、[熱\(58%\)](#)、[頭痛\(52%\)](#)、[鼻水\(50%\)](#)などでした。BA.1の感染者と比べると、[鼻水](#)、[下痢](#)、[味覚異常](#)、[嗅覚異常](#)の頻度が高く、症状が続く期間もBA.1の4日間と比べ7日間と長かったとのこと。また全く無症状であったのは3%のみであったということです。ただし、患者数も少なく、検査対象の選び方によっても変わってくるので、これらの症状の頻度・持続期間・無症候性感染者の割合は今後さらなるデータによって修正される可能性もあります。また、同様に[イギリスのZOE study appという携帯アプリを用いて行われた調査](#)では、BA.5が拡大している時期に行われた症状の調査として、

・鼻水 66%、[のどの痛み 65%](#)、[頭痛 64%](#)、[咳 63%](#)、[だるさ 62%](#)  
・[くしゃみ 53%](#)、[声のかすれ 44%](#)、[発熱 31%](#)、[嗅覚異常 21%](#)

と報告されており、やはり[鼻水](#)や[のどの痛み](#)、[咳](#)が多いようです。これらの症状がみられた場合は無理せず仕事や学校は休んで、検査を受けるようにしましょう。

## 重症度や潜伏期間に変化があるのかはまだ分かっていない

潜伏期については、これまでのオミクロン株と同様に3日くらいなのではないかというのが実臨床での印象です。

## まだ分からないことが多いBA.5 十分警戒しましょう

- ・屋内ではマスク着用し、飲食の時間もマスクを外す時間をなるべく短くする
- ・3密を避ける（①換気の悪い密閉空間、②多数集まる密集場所、③間近で会話や発声をする密接場所をさける。大きい声はだめ）
- ・こまめな手指衛生を行う（業務中は5つのタイミングで手指消毒する）

といった基本的な感染対策を継続的に行っていくことが重要です。また、3回のワクチン接種によって新型コロナへの感染予防効果・重症化予防効果を高めることができます。オミクロン株ではワクチンによる感染予防効果が低下しており、3回接種をしていても感染することはありますが、[3回接種している人では感染した際も排出するウイルス量は減少する](#)とされており、周りには感染させにくくなると考えられます。また高齢者や基礎疾患のある方は4回目の接種によってさらに重症化を防ぐことができます。自分自身を、そして周りの人を守るためにも、引き続きワクチン接種をご検討ください。

### 付け足し

ウイルスが侵入するのは、[目・鼻・口](#)です。顔に触れる前に手指衛生をしましょう。

[目・鼻・口から侵入を防ぐために、会話時はお互いにマスクをすることが重要（マスクをしても1m距離をとる）](#)です。

また、医療現場でマスクができない患者さんに対応する場合は目を覆うものとして、ゴーグルやフェイスシールドの装着が必要です。

エアロゾルでの感染を防ぐためにも、[十分な換気が重要](#)です。医療行為では、吸引・挿管など咳などを誘発する場合は、N95マスクが必要です。

### 5つのタイミングで手指消毒をしましょう

- ① 患者に触れる前
- ② 患者に触れた後
- ③ 患者の使用したものや周囲に触れた後
- ④ 汚染物で手が汚染したとき
- ⑤ 清潔操作をする前や清潔なものに触れる前（新しいPPE、注射点滴の準備、患者さんに内服・食事・口腔ケア・吸引などする直前に）